

大阪大学グローバルCOEプログラム
「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」
在日外国人を取り巻くコンフリクトを緩和するシステム構築

代表者 大阪大学大学院人間科学研究科
国際協力学講座
中村 安秀
連携研究者 小島 祥美(愛知淑徳大学)

研究の目的

【背景】日本には現在200万人以上の外国籍の人口が暮らしている。多くの外国人が日本に定住化するにつれ、生活上の最重要テーマである保健医療と教育をめぐる問題が深刻化している。

【現状】外国人に対して日本人と同等水準の保健医療サービスを提供するためには、ひとりひとりの外国人の病歴、主訴、診断告知、治療方針の説明などに関して十分なコミュニケーションが必要不可欠になる。そのためには、単なるマニュアルやパンフレットだけでは不十分であり、保健医療分野に造詣の深い通訳者が求められる。また、教育においては、小中学校における不就学や不登校が大きな問題となっており、その実態の解明と対策は喫緊の課題である。

【目的】本研究においては、在日外国人をめぐる保健医療と教育の課題のうち、とくに保健医療通訳と不就学・不登校の問題に焦点を当て、具体的な提言を行う予定である。両者には、多文化共生社会におけるコミュニケーションのあり方、生命権や教育権という人権という切り口、外国人の暮らしにとって日々の切実な課題であるといった共通項がある。しかも、その対策として、個々の病院や学校での経験や工夫だけでなく、広域的なシステムの構築が要求されている。

期待される成果

- (1) 内なる国際化をめざすには、外国人の生活の場からのまなざしが不可欠である。教育と保健医療という切実な課題に正面から取り組むことは、「コンフリクトの人文科学」にとっても重要な研究課題である。
- (2) 本研究は、実践的研究と位置づけられる。在日外国人の教育と保健医療の課題の解決に向けて、コンフリクトを緩和できるようなシステムの提言をめざしている。「コンフリクトの人文科学」というテーマにおいては、このような提言を行うアドボカシー・タイプの研究も必要であると考えられる。

研究プロジェクト・メンバー

代表者
中村 安秀 (人間科学研究科・教授) 総括

事業推進担当者
平沢 安政 (人間科学研究科・教授)
志水 宏吉 (人間科学研究科・教授)
池田 光穂 (コミュニケーション・デザイン・センター・教授)

連携研究者
李 節子 (県立長崎大学シーボルト校・教授) グローバルヘルス
津田 守 (コラボレーションセンター・教授) コミュニティ通訳
小島 祥美 (愛知淑徳大学・講師) 外国人の不就学
エレラ・ルルデス (人間科学研究科・特任研究員) 保健医療通訳
乾 美紀 (人間科学研究科・助教) 多文化共生と教育
李 錦純 (人間科学研究科・院生) 在日外国人の高齢者

在日外国人研究班 2008年度の研究業績

- 1) 保健医療通訳シンポジウム(大阪大学ユメヌホール) 2008年6月
Cindy Roat氏(全米医療通訳協会理事:National Council on Interpreting in Health Care :NCIHC)の講演会。
- 2) 長崎医療通訳フォーラム(長崎) 2008年9月、11月、2009年1月
長崎県立大学、長崎県国際交流協会、長崎県通訳案内士協会と共催。多文化共生時代における医療通訳の役割と必要性、医療通訳の実践、地域特性を活かした医療通訳システムのあり方、などを討議した。
- 3) 医療通訳士協議会設立総会(大阪大学コンベンションセンター) 2009年2月
保健医療分野に造詣の深いプロフェッショナルな通訳士が求められるという共通認識のもと、医療通訳士に対する適正な報酬と身分を保障するための制度の整備と、医療通訳士の技術向上のための活動を行うことを目的とした「医療通訳士協議会」(Japan Association of Medical Interpreters: JAMI)を立ち上げた。
設立総会と記念シンポジウムには、医療関係者、NGO、自治体、大学、研究機関、企業、学生、ボランティア、メディアなど、全国から100名近い方々が集った。
- 4) シンポジウム「子どもの教育権とその保障システム構築」(沖縄) 2008年9月
外国人学校関係者、NPO/NGO関係者、教育・行政機関関係、研究者など約80名が参加し、アメリカンスクール10年の歩みから、アメリカン方式を応用した外国人の子どもの教育保障のあり方などを討議した。